

6 「スマートe-trasus」クラウドサービスの概要

1,000億円に達すると言われている（株式会社矢野経済研究所調べ）。

商用車向けテレマティクスサービス「スマートe-trasus」は、急速に普及しているスマートデバイスを使ったカーナビゲーションシステムを採用している。CRM（Customer Relationship Management）などの営業支援業務を強力にサポートするサービスをラインアップに加え、対象を配送業だけでなく、営業車、保守サービス車を利用する業務にまで拡大する。

月額低価格SaaS型クラウドサービス、差分更新による最新地図とプローブ情報を使った交通情報提供、および端末としてスマートデバイスのナビを使うことにより、必要なときに必要な業務アプリケーションをクラウドから簡単にダウンロードして利用できるという3点が特長である。

今後は、業務アプリケーションのラインアップ増加と、中国をはじめとしたグローバル展開を

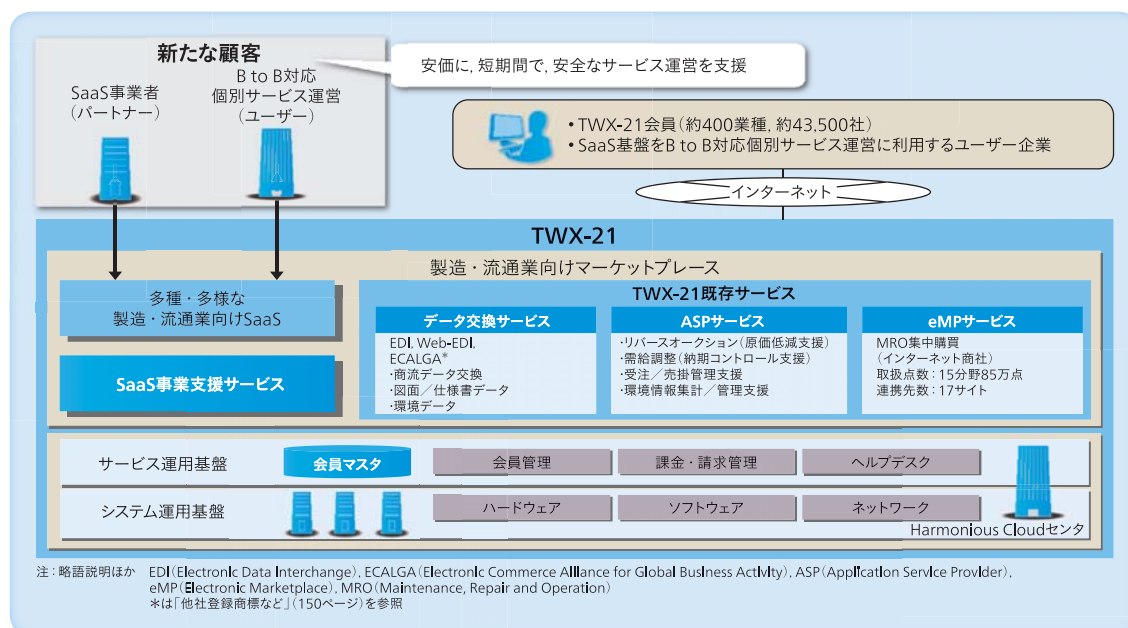
行っていく計画である。

（株式会社日立ソリューションズ）

## 7 TWX-21 SaaS事業支援サービス

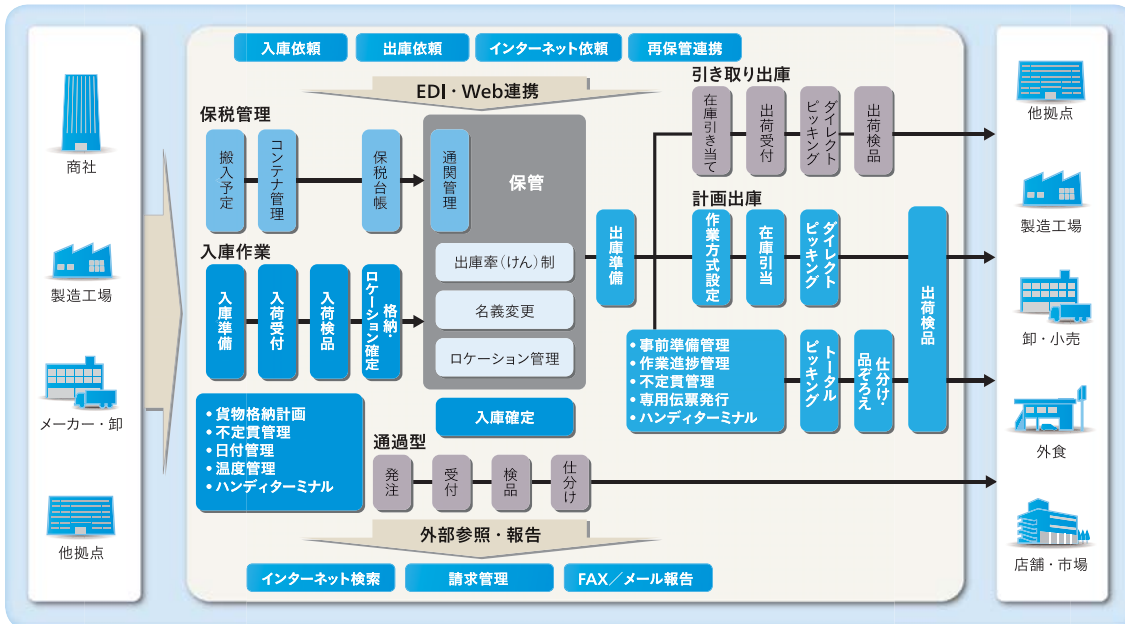
グローバル対応のB to B（Business to Business）向けSaaSを新規に始めるアプリケーションベンダー向けに、2011年6月、企業間ビジネスメディアサービス「TWX-21」SaaS事業支援サービスの販売を開始した。

これは、製造・流通業のグローバル進出におけるSaaS（クラウド）ニーズの高まりに対応し、より多くのサービスメニューの短期間立ち上げと効率的運営を支援するものである。TWX-21の長年にわたるSaaSサービス運用実績によるユーザーニーズを把握した、企画、開発、運用・稼働監視、保守・バージョンアップ、拡販、ユーザーサポートにいたるサービス立ち上げ・運営のノウハウを提供する。アプリケーションベンダーは、このサービスを利用することにより、ニーズを反映したエンドユーザー企業へのサービス機能の開発・提供と、安心・高品質のサービス提供に専念できる。このサービスを活用し、その第一号として株式会社日立東日本ソリューションズが2011年7月にプロジェクト管理向け情報共有サービス「OnSchedule」を数か月で開始した。TWX-21は、SaaS事業支援サービスを利用したグローバルでの業務を支援する多種多様なSaaS（クラウド）メニューを今後3年間で100種以上に増やしていく



注：略語説明ほか EDI(Electronic Data Interchange)、ECALGA(Electronic Commerce Alliance for Global Business Activity)、ASP(Application Service Provider)、eMP(Electronic Marketplace)、MRO(Maintenance, Repair and Operation)  
\*は「他社登録商標など」(150ページ)を参照

7 TWX-21 SaaS事業支援サービス



8 「Sherpa/倉庫管理クラウドソリューション」の適用業務

予定である。

TWX-21を「Harmonious Cloud」におけるクラウドマーケットプレイスとして充実させ、製造・流通業のグローバル対応を支え続けていく。

## 8 SaaS型倉庫管理システム 「Sherpa/倉庫管理クラウドソリューション」

食品物流の担い手である低温物流業界では、物流品質の高度化やコスト低減という顧客ニーズを背景に、コストパフォーマンスに優れた倉庫管理システムが求められている。

「Sherpa/倉庫管理クラウドソリューション」は、低温物流業界最大手の企業グループの倉庫100拠点の業務ノウハウを集結して開発され、冷蔵倉庫や食品物流センターなどで必要となる多彩な管理機能を網羅しており、TWX-21のSaaS基盤上で、高信頼のクラウド型サービスとして提供されている。

クラウド型であるため短期間（最短1か月）で稼働でき、稼働後の拠点の追加・変更が可能である。また、IT資産を所有する必要がないため、トータルコストの低減に寄与する。導入支援はシステム導入から運用保守までをトータルサービスとして提供する。運用保守は24時間365日常時監視でサポートも可能であり、問い合わせには物流業務に精通したSE（System Engineer）が対応する。

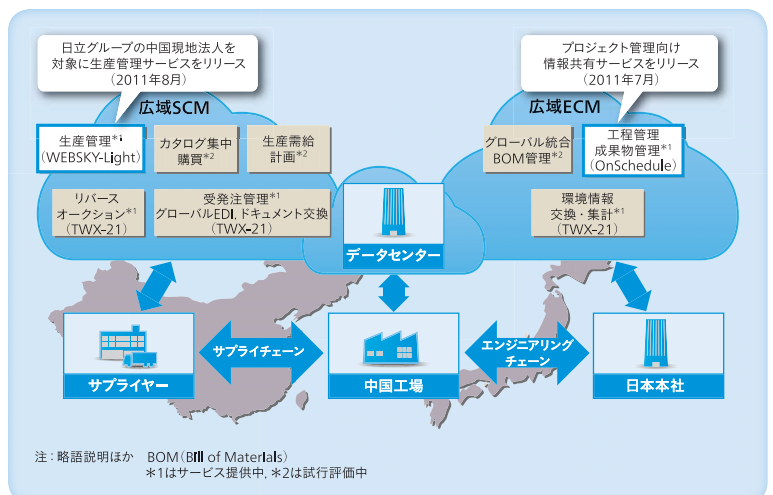
今後は、英語、中国語などのグローバルへの対応、ソーターなどのマテハン連携のモジュール整備、輸配送システムの構築、タブレット端末およ

びスマートフォン対応などの機能拡張を行っていく予定である。

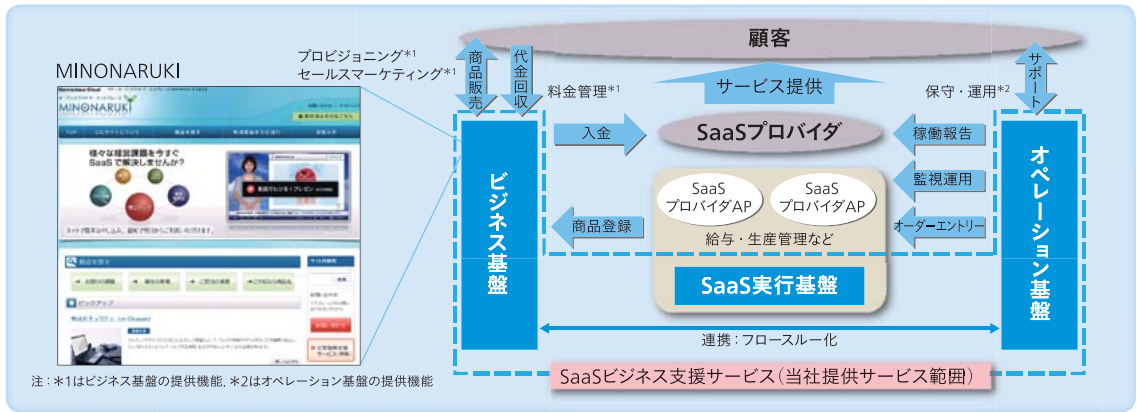
## 9 クラウドソリューションによる グローバルSCM/ECM支援

企業活動を支えるIT資産の考え方は「所有」から「利用」に変化してきており、業務システムをクラウド形式でグローバルに活用するニーズが高まっている。

これまで、TWX-21では、約43,500社の利用実績とSaaS基盤技術を基に、そのSaaS基盤上にグローバルSCM（Supply Chain Management）/ECM（Engineering Chain Management）を支援する業務システムをクラウドで立ち上げ、中国に進出する日系製造業のユーザーに試行サイトを提供する「China-SCMプロジェクト」を実施してきた。



9 「China-SCMプロジェクト」による試行サイトと正式サービスの開始状況



10 オープンクラウドマーケットプレースの「SaaSビジネス支援サービス」

その結果、約100社の試行・評価から得た有効性から、すでに提供中であるTWX-21のWeb-EDI、ドキュメント交換、見積評価、環境情報交換のサービスに加えて、プロジェクト管理向け情報共有サービス「OnSchedule」を2011年7月に、日立グループの中国現地法人を対象とした生産管理「GEMPLANET/WEBSKY-Light」のクラウドサービスを2011年8月にそれぞれ提供開始した。

今後、さらに新たな業務システムを評価・検証するとともに、中国・東南アジアに向けたグローバルサービスを強化・拡充していく予定である。

専任のIT担当者がいない中堅・中小企業では、自社に適したSaaS/クラウドサービスの選択・検討が容易でないうえ、導入後に自社の業務とのミスマッチが生じるなどの課題があった。また、SaaSプロバイダにとっては、自社でSaaS実行基盤を用意することも大きな負担であった。

この状況の下、SaaS/クラウドサービスを顧客がみずから注文・導入できるWeb上のオープンクラウドマーケットプレース「MINONARUKI」を開設し、2011年5月に販売を開始した。日立グループ各社および日立グループ以外のSaaSプロバイダが保有する給与や生産の管理など多数のサービスを用意し、ITシステムの導入費用を削減したい中堅・中小企業を対象に拡販を図っていく。また、SaaSプロバイダに対しては料金、代金回収などを行うビジネス基盤や、SaaS実行基盤、オペレーション基盤を、一括提供するSaaSサービスの場合「SaaSビジネス支援サービス」によりサポートしていく。

(株式会社日立システムズ)

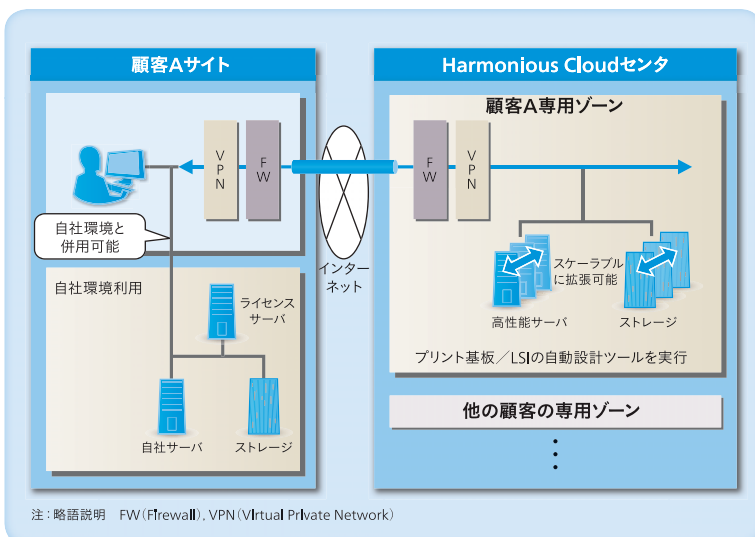
## 10 オープンクラウドマーケットプレースによるSaaS/クラウド販売基盤

近年のIT環境は、クラウドなど新しいサービスプラットフォームの出現やネットワーク技術の進歩によって大きく変化している。これに伴い、より柔軟かつスピーディーにシステムを導入したいというニーズを背景に、企業においては、SaaS/クラウドサービスの利用が進んでいる。一方、

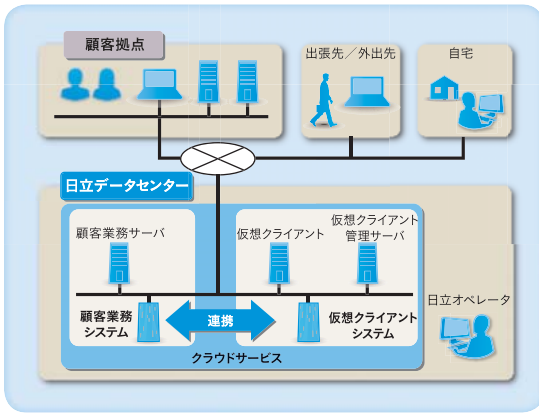
## 11 高性能クラウド型プリント基板/LSI設計環境提供サービス

東日本大震災を機に、災害発生時にも業務継続可能なBCM (Business Continuity Management) 強化のニーズが急速に高まっている。また、近年、産業用情報機器から個人用電子機器にいたるまで、装置の小型化・高機能化・デザイン性などにおける市場ニーズの短サイクル化が進む中、そのキーコンポーネントとして使用されるプリント基板やLSI (Large-scale Integration) の高効率設計には、最先端・高性能の計算機が必須とされている。

これらのニーズに応えるため、日立グループで培った高度なノウハウを取り込み、数多くの実績



11 顧客サイトの設計環境と併用可能な高性能・高信頼のクラウド型設計環境



12 仮想クライアントシステムの例

を踏まえた先進の高性能クラウド型プリント基板／LSI設計環境提供サービスをリリースした。堅牢(ろう)で高セキュリティ、かつ環境配慮型の「Harmonious Cloudセンタ」を使用しているため、災害発生時には貴重な設計資産を保護して顧客のBCMを強化し、グリーンIT推進にも貢献する。ピーク需要や突発的需要などの需要変動に応じて設計リソースを柔軟に活用できるため、リソース不足による品質低下や開発遅延による事業機会の損失を防ぐことができる。また、より高い機能の追加や高い品質の作り込みなど、設計スタイルの変革によってさらに競争力を強化するとともに、各顧客に応じてさまざまな付帯サービスを提供し、計算機ジョブやシステムの運用管理工数の軽減にも貢献する。

今後は、設計改革サービスや設計支援サービスと合わせ、半導体総合エンジニアリング事業として推進していく。

## 12 仮想クライアントソリューション

クラウドサービスにおいて、仮想クライアントは成長率の高い分野である。堅牢なセンターにクライアントを集約することで、ユーザーは場所を選ばずにクライアントを利用でき、クライアント管理負荷の低減とセキュリティ強化が可能となる。また、災害発生時にはセンターでデータが保全されているため迅速に復旧でき、事業を継続することができる。

このニーズに対して、国内トップクラスの堅牢さを誇るセンターで、豊富な構築実績と数万人規模の社内運用に基づくサイジングや安定稼働のノウハウを活用し、高信頼・高品質の仮想クライアントソリューションを提供している。顧客が業務

サーバもクラウドで利用している場合、業務サーバとクライアントの連携により、顧客は業務システム全般をクラウドとして利用することができる。

今後も、クライアント運用に関するサービスのさらなる充実と、複数センターを利用した災害対策環境の構築などにより、顧客の要望に応える仮想クライアントソリューションを提供していく。

## 13 クラウド型ストレージサービスによる事業継続支援

震災の影響により事業継続性が重視される中、利用可能な遠隔バックアップサイトのクラウドによる提供へのニーズが高まっている。これに対し、日立クラウドソリューション「Harmonious Cloud」によるクラウド化推進の一環として、以下の二つの運用管理を含むストレージサービスの強化を行った。

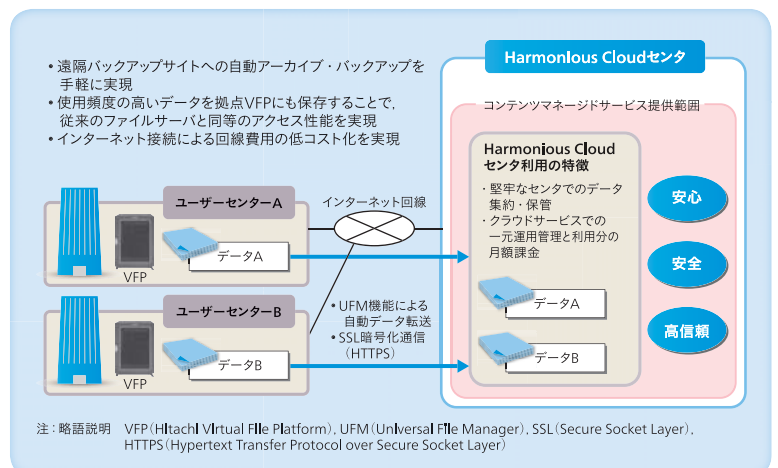
(1) コンテンツマネージドサービス (2011年6月提供開始)

画像などのコンテンツデータ向けサービスであり、拠点に点在するコンテンツデータを遠隔のHarmonious Cloudセンタへ手軽に自動アーカイブ・バックアップできる。

(2) データマネージドサービス (2011年9月提供開始)

基幹システムデータを保管するための高信頼ブロックストレージ向けサービスである。ユーザーセンターから堅牢なHarmonious Cloudセンタのストレージへ、ストレージリモートコピー機能を活用し、遠隔データ転送を行う。

今後も高付加価値のデータ管理の実現に向け、ストレージサービスの拡充を図っていく。



13 コンテンツマネージドサービスによるHarmonious Cloudセンタへの遠隔アーカイブ・バックアップ